

京都市基本計画審議会 第1回うるおい部会
摘 録

日 時：平成21年10月27日（火）15：00～17：10

場 所：キャンパスプラザ京都2階ホール

出席者：

あさはら 朝原	のぶはる 宣治	北京オリンピックメダリスト，大阪ガス株式会社
あさり 浅利	みすず 美鈴	京都大学環境保全センター助教
あほ 安保	ちあき 千秋	弁護士
いけのぼう 池坊	ゆき 由紀	華道家元池坊次期家元
いしだ 石田	すてお 捨雄	株式会社京都環境保全公社取締役会長
いたくら 板倉	ゆたか 豊	西京区基本計画策定審議会議長，京都精華大学人文学部環境社会学科教授
いぬい 乾	こう 亨	立命館大学産業社会学部教授
えんどう 遠藤	ゆり 有理	公募委員
おぼた 小幡	まさお 正雄	公募委員
おぼろや 龐谷	ひさし 壽	上京区基本計画策定委員会委員長，同志社女子大学名誉教授
かじた 梶田	しんしょう 真章	本山獅子谷法然院貫主
しげやま 茂山	せんざぶろう 千三郎	大蔵流狂言師
はまさき 濱崎	かなこ 加奈子	伝統文化プロデュース連REN代表
ほそだ 細田	かずみ 一三	日本労働組合総連合会京都府連合会事務局長
むらい 村井	のぶお 信夫	各区市政協力委員連絡協議会代表者会議幹事

以上15名

◎…部会長

(50音順，敬称略)

1 開会

2 部会長あいさつ

乾部会長

部会長に指名されたので、進行を務めさせていただく。精一杯務めさせていただくのでよろしく願います。

3 議事

(1) 副部会長指名

乾部会長

まずは、規約に従って副部会長の指名をさせていただく。副部会長は、法然院の梶田さんをお願いする。

——（梶田委員，副部会長席へ移動）——

(2) 共汗部会の役割や次期京都市基本計画の構成等について

乾部会長

早速議事に入る前に、一つだけ言わせていただく。

名簿を見ればわかるように、うるおい部会は環境，文化・スポーツ，市民生活に関するメンバーがいて，その部分を担うこととなっている。ただ，この3本柱を3本柱のまま走らせてしまえば，野合になってしまう。そのため，全体として融合委員会があるように，部会も大きな意味では3つのテーマの融合委員会だと思っている。

これから何を語るかは皆さんの意見で形を作っていけばよいのだが，私としては大きく市民生活をデザインする，ほかの部会が，市が何をするのかを考えるとすれば，ここは市民が何をすればよいのか，市民生活をどのようにしていくのか，それをどうサポートするのかという辺りを考える部会だと理解している。その辺りでこの3つをうまくかみ合わせながら議論ができたらと思っている。

特に前半は哲学を語るという形で進め，後半で各論を押さえることが望ましいのではという気はしているが，その進め方はこれから先，皆様の御意見をいただくとして，大きくはこの3つは1つである，ここでは1つの話として議論しようということをお願いしたうえで，まずは資料に従いながら，事務局から説明をお願いする。

事務局から以下の資料を説明

- ・資料1 審議会の全体構成と共汗部会の役割について
- ・資料2 次期京都市基本計画の構成について
- ・資料3 分野別方針記載項目（案）
- ・資料3別紙 政策-施策の仮体系（案）
- ・資料4 共汗部会の運営について（案）〈うるおい部会〉

(3) 意見交換

乾部会長

事務局の説明に縛られる必要はなく，自由に議論しながらこの部会の行き先を決めていけたらと考えている。

まず，自己紹介がてら順番に審議会，部会に期待することや運営の仕方，など何でも構わないので御意見をいただきながら自己紹介いただき，その後，時間が許す限り提起された問題を議論していきたい。

村井委員

門川市長が市民と行政の共汗、共に汗をかくということを言われているので、今回のうるおい部会もそのようにお願いしたいと思っている。年齢は関係なく、京都市の活性化のために頑張りたい。

細田委員

私は働く立場ということで審議会に入ったと思っている。働くものの連携で希望と安心の社会を築こうということ今年のスローガンで取り組んでいる。そういう意味では環境、市民生活の分野、そして少子高齢化など非常に厳しい中でどのようにしていくのかという面で意見があればお話をしたい。

濱崎委員

私は伝統文化を知ってもらい、広げていこうという活動をしている一方で、日本文化、芸能史の勉強をしており、大学で研究しながら市民団体と研究者、技術を持っている方をつなぐような役割が必要だと考え、活動している。この審議会でも、それぞれ分野に区切ったりということではなく、なるべくその隙間を重視して、どうやったらつなげるかを考えていければと思っている。

臈谷委員

私は、昨年、源氏物語千年紀では企画部会に属し、深く関わった。実は、建都1200年のときの京都府・市の対応の鈍さには正直いって少しがっかりしていたが、源氏物語千年紀では、府も市もほかの団体も含めて非常に盛り上がり、量り知れない利益が上がったと聞く。これは文化的にも大きな成果だったと思う。

私は上京区基本計画策定委員長をしており、そこでも申しているが、こういう議論をすると並列的にこんなことをやりたいといった目的を並べ、その中には絵に描いた餅も非常に多い。財政的にかなり京都市が逼迫しているということもあり、絵に描いた餅があることも大事だが、あまりお金を使わずに皆で知恵を出し合ってやっていけることを考え、そしてできたものを成果として押さえていくことが必要だと思っている。

小幡委員

私は、公募委員として、19年度の時の京都市基本計画点検委員会に参加させていただき、今回計画を作る方にも応募させていただいた。一昨年に民間企業を退職したが、色んな地方に転勤した目線で京都を見てきたということと、企業人としてやってきたこととともに、市民の目線で意見を出していきたいと思っている。

遠藤委員

これまでずっと専業主婦をしており、3人の子どもがいる。将来の不安を語る子どもの話を聞き、少し不安を感じるようになり、市政に参加できればということで初めて応募させていただいた。先日の総会もハイレベルな言葉を交わされていたが、市民参加である以上、私がわかれば大体の方がわかると思うので、わかりやすい言葉で進めていただきたいと思う。

板倉委員

西京区の自然の中で団栗をとってクッキーを作ったり、炭焼きがまを作ったりしている。全市的な視野に立ってということは苦手だが、局地的な自然といったことには自信があるのでぜひ協力したい。

石田委員

私は、環境分野で産業廃棄物や家庭ごみの処理をしており、京都市の循環型社会推進計画の委員もしている。環境中心の考え方が多いが、スポーツも文化も好きなので意見を出していきたい。

共汗の考え方について、共汗するのは京都に住んでいる市民だけでなく、京都で働く人、京都で学ぶ人、京都を訪れる人、それと行政、京都に関わるすべての人が共汗するようなモノの考え方で、未来の計画を考えたほうがよいのではと考えている。

池坊委員

私は生け花の仕事をしているが、生け花という文化をどう世代を超えて伝承していくのが、難しい問題である。

京都は歴史的に見ても、人の力が大きく市政やまちづくりに寄与してきたところである。単一ではなく、それぞれの地域が個性を見せ、個性を生かしながら、それぞれの世代が自分たちの輝きを見せながらも異世代が交流したり、融合することによって、更に大きな力が生まれるところではないかと思っている。そういう意味では京都はいろんな世代をうまく巻き込んで新しい形を作れる可能性があるところだと思うし、大学生が多いのも特徴である。少子高齢化が進む中で若い世代がいることを、うまく京都市の活力として生かせればと考えている。

安保委員

弁護士をしており、京都弁護士会に所属している。もう一人本日欠席しているが、江頭委員も弁護士である。弁護士がここに入っているのは、人権に関して意見を述べるのが役割かと思っている。人権というと、面白くない、建前と本音が違うなどと捉えられがちだが、人の存在の奥深さ、豊かさを表しているものだと思っている。京都は長い歴史と文化を持っており、人の存在と豊かさの広がりもある反面、人の内面のしんどいところ、表に出したくないところも奥深く抱えているところである。子どもに対しては自分の中の悪を見せてはいけないと言うが、悪も善も両方抱えて悩んでやってくことが人権の奥深さだと思うし、その奥深さを抱えた京都の施策であってほしいと思う。

弁護士として市民生活にかかわっているが、順風満帆に進められることばかりではない。人が困ったときに関わる仕事なので、市民生活を考える場合に困ったときも含めて考える必要があると思っている。

浅利委員

私の専門として、家庭ごみの調査をずっとしているが、ごみは社会を映す鏡であり、最近では共働きが増えているため、調理クズが減り、レトルトパックのごみが増えるといったことがわかりやすく出てくる。そういう意味で情報共有し、ブレイクスルーしていきたい。女性の問題、高齢者問題、学生の一過性やコミュニティといったいろんな問題が出てきてつなげていけるのではと思う。

また、地球温暖化、京都議定書に関する活動もしている。その理由は、2005年の京都議定書発効の年に海外を旅行していたところ、京都から来たというと、一般市民の方から京都議定書について意見を求められ、答えられずにショックを受けて帰ってきたからである。京都は伝統文化などがベースにあるが、世界に向けては環境をリードしている、すべき都市であるとの印象がある。これだけの奥深さがあるから新しいこともやっていけるという環境の都市を作りたいと思っているので、そういう視点からも奥深い京都の在り方、ベースがありながらも環境も含めた新しいことにチャレンジする都市にできればと考えている。

朝原委員

大阪ガスに所属しながら、北京オリンピックでメダルを取ったこともあり、講演や陸上競技教室などをさせていただいている。実際に様々な企業、大学、行政の協力で明日から「ノビトラックアンドフィールドクラブ」というトラッククラブを西宮で開催する。スポーツを通じて子どもたちが明るく健全に育つということが、一つのまちづくりだと思っている。

現在、スポーツを通じて奈良市を盛り上げるために遷都1300年のイベントの一つとして、5月にウォーキングイベントを行い、スポーツでありながら仏像、文化に触れる取組をする予定である。こじつけかもしれないが、自転車や歩きはエコにもつながるということで、スポーツを通じて私が役立てることがあればと思っている。

梶田副部長

市民が行政に何がしてもらえるのかではなく、市民が何ができるのかが考えていける会であればと思っている。これだけ行政の方も時間を割いて参加されているので、行政が思い付かないこと、思い付いたけど言いにくいことなどを、最初は思い切って出してください、段々と収束していくことになると思うが、それまでは様々な御意見を聞ける楽しい時間だと考えている。

乾部長

私が今一番やっているのは、地域コミュニティを基本にしたまちづくりということで、学生たちと色んな地域のまちづくりをお手伝いしながら一つの考え方にまとめるということをしている。

京都市とは10年前に京都市が市民参加に取り組み始めた頃から関わっている。10年前に京都市が言っていた市民参加は、大きくは市政への参加、意見をどう聞くか、市民の思いをワークショップ、パブリックコメントや公募委員を入れて拾い上げるということだったかと思うが、これについてはずいぶんと進んだ。ただ、この10年間地域、市民の動きはもっと進んでおり、市民参加を語るときに市民活動、地域の自立を無視しては進められない。そうすると今京都市が考えるべきは、それをどうサポートするか。昔ながらの動員をして人を集めるのではなく、市民の動きをエンパワーメントするための仕組みに変わっていく必要があると考えており、その辺りの提言が入れられればと期待している。

自己紹介としては以上だが、今、御意見をいただいたように、本来密接なつながりがあるはずのものを上手くつなげる話をしていけたらと思う。

私自身の運営についての考えとして、1点目はやはり行政職員の方々を仲間だと思って話をしていかなければならない。行政職員は、一番密接に市民とキャッチボールをしている方々であり、市がこんな状況にあるという突っ込んだ話をしていただきたい。

2点目は、100%議論に参加することは難しいかもしれないが、傍聴に来られた方の御意見も聞く開かれた会議にしていきたい。

3点目は、私は市民参加推進フォーラムの座長もしており、そこでは、公募委員にどれだけ力を発揮してもらえるかという仕組みづくりを検討している。その中で、難しい話をしていて発言できない、市民代表として何を話せばよいのかという悩みなどが出ている。市民感覚を求めるならば、公募委員の方が一番の主人公である。また難しいことを難しくなく語るということが本来、専門家の役目であり、難しいことは難しいと堂々とおっしゃっていただきたい。

4点目は「徹底的な市民参加」が事務局の説明にあったが、本当は区の議論との応答関係で進めなければならぬと思っている。当部会は、幸い上京区の臈谷委員、西京区

の板倉委員，下京区の仲上委員がおられる。私は，区の議論は小さな融合部会だと思っており，各区の問題として色んな課題，当然うるおい部会に関する御意見も出ると思うので，行政の方から意見を反映していただき，うるおい部会の素材として議論していきたい。

以上大きな方向性を私の言い分として主張したうえで，あと1点，まとめ方，運営について先ほど市から提示されたことに関し，私の意見として，部会で議論したことを環境や市民生活といった分野だけでまとめてしまうと本当にこの部会は野合となってしまふ。まとめ方はこれから決めればよいが，資料3の別紙である政策一施策の資料にこだわると，本当はうるおい部会全体としての上位政策が存在するはずだと思っている。融合委員会にうるおい部会の考えを持っていくには，うるおい部会として，つまり市民生活にうるおいを持たせるためにはこういう哲学が必要だということが必要であるし，座長としてそのように運営したい。

もう1点は，資料4に，平成21年度は4回議論すると書かれており，一見多く見えるが，2回目から4回目の議題でそれぞれの議題を語って終わらされてしまうと，1回ずつの議論という気分になる。市の顔を立てるなら次回は文化・スポーツを切り口として，ただし，施策レベルの検討ではなく，市民生活を豊かにする観点で検討する。次に環境を切り口に市民生活の頭出しをするなどという形で進める一方で，それぞれ御自分で抱えているところでここはこうすべきということはしっかりと出していただいて進めていければと私自身は思っている。

御意見の2巡目は皆様の考え方や私の運営方法の御意見など，完全にフリーで進めていくので，よろしく願います。

臈谷委員

資料3の別紙について，政策一施策が決められているが，例えばうるおい部会の政策について，どういう風に分けられたのかが疑問である。色々総合的に関わってくるので，他のところに網の目のように入っていくことで構わないという考え方でよいのか。

乾部会長

後ほどこれを考えた方にも議論に参加していただくとして，まずは他の御意見もお伺いしたい。

浅利委員

基本的に市の方々も一緒に議論していくという前提があったので，後ほど行政のキーパーソンの方から御意見をいただきたい。

小幡委員

私自身が市政に参加したのはごみの有料化がきっかけだった。ごみの説明会に出て市民として何かしなければと思い，現在，家内とともに，近所の有志のメンバーと新聞紙，段ボール，雑紙などの回収や京都市からの依頼でモデル拠点として，蛍光管，電池，リユースびん，てんぷら油などの拠点回収を実施している。このようにごみ袋有料化時の説明会のような，何か市民が参加する契機となるインパクトのある政策があればよいのではと思う。

茂山委員

私は，この10年の「人の心」といったことについて考えていきたいと思っている。過去10年というのは，日本人は頑張れ頑張れということできたのではないか，例えば

ノーと言えない日本人，はっきりしろということでイエス，ノーをはっきり言おうとしてきたような気がしている。時代が変わってきて今注目されているのは，イエス，ノーの間にある「ありがとうございます」という言葉ではないかと思っている。イエスでもなく，ノーでもないというのはそれこそ京都ではないか。行政の中で「ありがとう」というのは，つまり相手次第の考え方ではないかと思う。イエスかノーかを聞かれたときに，あなたに委ねるという考え方，つまり行政としては市民に対してどうしたらいい，どうすればよいというポジションを常に考えながらやっていく，上からではない考え方を盛り込んでほしいと思う。そういう意味で，「ありがとう」という気持ちは日本人らしいし，それがゆとりにもつながり，それこそそうのおいのある京都市という一つの考え方になっていくと思う。そういう心，受け取り手というものを考えながらの在り方を提案していければと思っている。

乾部会長

全体として，文化・スポーツ，市民生活などをばらばらに語るのではなく，間をつなぐ哲学を検討すべきというこれまでの御意見にぴったりのお話だったと思う。

遠藤委員

一般市民として，環境問題について市民感覚で言わせていただくと，環境問題に関して話をしても「どうにかしなければね，誰かが」という話になり，「あなたはどうするの」と尋ねると「私なんかにはとても無理」という反応で，温暖化に対しても頭の良い学者さんがロケット一発打ち上げれば解決してしまうようなものが作れるのではというような考えである。深刻さや不安は誰しもが持っているが，どうしても自分ではなく誰かが何とかしてくれる，自分たちが考えることではないという感じを受ける。あまり大きすぎず，これなら自分でも続けることができるという簡単な「ごみはごみ箱に」といったようなキャッチフレーズ的なもの，子どもにもわかりやすいものがあれば市民としても入りやすいと思う。

乾部会長

「私の問題」として捉えられるかという非常に大事な御意見である。

この辺で市職員のお話を聞いてみたい。臈谷さんからの他部会に係る議論もしてよいのかということへのお答えのほか，浅利さんからの市としてうるおい部会に列席するに当たり，委員と同じように語っていただきたいということについて，願います。

事務局（柴山政策企画室長）

まず，政策一施策の仮体系について，これは今後御議論いただく際の一つの手掛かりとしてお示ししたものであり，今回，基本計画審議会の部会で，いわゆる分野別方針を御議論いただく際の一つの整理として提示した。市長も「共汗と融合」といつも申しており，分野を限ることなく，融合を頭において議論していきたいと思っている。

当然，他の部会でもうるおい部会に関連することも出てくると思うので，政策一施策に関わらず，他との関わりも含めて御議論いただければと思う。それぞれの部会での御意見の調整は最終的に融合委員会に願います形で進めて参りたい。

部会長が切り口とおっしゃっていたが，政策一施策の仮体系は一つの手がかりとして，狭く議論のテーマを閉じ込めるのではなく色々な観点で御議論いただきたい。

乾部会長

要するに「任せる」ということだと理解したので，他部会の分野との間に穴を開けて

いきたい。

事務局（坪内環境政策局長）

4つの部会については、市役所が所管で仕事をしているため、関連があるものをくくったと考えている。平成23年度からの基本計画は、10年後の京都がどうあればよいのかということを書くことになる。私たちが委員の方々に期待することは、他の部会にも関係するようなお話を聞かせていただき、大きな在り方、理想を提言いただければありがたい。

事務局（大島地球環境政策監）

徹底した市民参加が大切なテーマとなっているが、私はこれまで市民の意見に耳を傾けなかったことはないと断言できる。障害者福祉、景観まちづくり、市営住宅、清掃行政、税、同和行政にも関わり、その時々、市民の方々と接点の中でちゃんと声を聞いてきたと自信を持って言える。ただ、もし、まだ皆様が役所に市民に対する配慮が足りないとお感じであるならば、それはたぶん組織として受け止めたことを皆様にお返ししなかったからだと思う。そのため、この審議会は当然のこととして市民の皆様の声を組織としてしっかり受け止めお返ししていくことをお約束したい。

事務局（前田業務改善担当局長）

行政が市民から求められているものは大きく二つあると思っている。

一つは法律である。何々しなければならぬ、何々するべきだということ、これについてはきっぱりと委員の皆さんがおっしゃっていただきたい。

もう一つは、例えば何々したほうがよい、こういうほうが楽しいのではないかということである。ごみの減量、リサイクルを役所が言ってきたからやるというのではつまらない。西京区で「ちょボラの会」、ちょっとボランティアというものがある。我々も仕事でやっていることはどうしても義務としてやってしまうが、楽しいこと、いいことをやろうということを、いかに行政がエンパワーメント、勇気付けていくかである。

これらの2つを分けて御意見をいただければ我々としても動きようがある。これは許せない、強制力を持って役所がするべきということと、こうあるべきではないかという柔らかい御提案を分けていただければ役所の中でこなせるのではと思う。ごみに関してということでもよろしく願います。

事務局（山岸文化市民局長）

私はこの10年で何の仕事をしたかと言うと、文化市民局長3年と、少し間が開くが文化部長というこの局で6年、環境に2年いたので、うるおい部会とかかわりが深い。その間に1年、京都アスニーにおり、これはすこやか部会の教育、生涯学習に該当する。生涯学習は広い分野に関わるので、文化、芸術にも大きなものを占めているのではと思う。文化もここにもおられるような日本の頂点の方々と市民文化は取組が全然違い、また文化財も違うので、幅広い御議論をいただければと思う。また、これまでに予算の仕事もしてきたが、その当時、ここにあるように文化市民局は分野がばらばらで一つの局でこういう政策という議論がしにくかった。そういう意味で皆様にこの悩みを解消していただければと思う。

市民生活も私の局だが、男女共同参画、青少年など幅広い分野、また区役所も管轄している。

乾部会長

答弁ではない、個人の思いを語っていただいた。こちらでも少し意見をいただきたい。

石田委員

4つの部会があり、その部会で色々審議されて出てきたものは膨大になるが、10年後の京都というものを見たとき、財政の問題もあり、プライオリティを付けなければならないと思う。このプライオリティは融合委員会で付けるのか、どういうところで付けるのかが疑問。環境モデル都市行動計画でも項目が多く、文化もすべて出てくるというのでは、重点戦略をどこかで絞る必要がある。部会長か市の方に教えていただきたい。

乾部会長

一旦預かって、他の方の御意見も願います。

浅利委員

うるおいを改めて考えると、女性なら肌など、それぞれ潤わせたいものがあると思う。その考えで挙げていくとどんどんたくさん出てきてつながっていくのではないかと。茂山さんが挙げられた心のように潤わせたいものについてブレインストーミングすれば面白いアイデア、つながりが出てくると思う。

茂山委員

いろんな項目が検討されるが、10年間で何を動かしたら世の中が変わるのかと考えれば、例えば小中学生が10年かけてこれだけのことを全部ができれば、この子たちが20歳くらいになったときに世の中が動くと思う。つまり集約的に一つのパートとして全部の項目から今の小中学生に向けて働きかければ何か生まれてくるのではないかと。私自身、ごみや自転車の走る場所など、習ってなくとも子どもに教えられることはいっぱいある。子どもにわかってもらわないと、結局大人にどう教えるのかが問題になってくる。そういうところで、4部会の上にあるものかもしれないが、基本計画の共通項目として子どもたちに働きかける総合的な部会、そういう別枠を作ることで10年後が変わっていくのではと思う。当然すこやか部会で学校教育等を検討されるが、大きな意味でこの部会は重要なのではないかと気がする。

村井委員

10年前に同じように構想を検討するために集まって以来、10年何をしてきたのかということが見えてこないし、総括がされていない。京都まつりを建都1200年ではじめたが、段々お金がなくなってやめた。もっと市民が10円ずつでも自分のお金を出して自前の祭りを作れば続くのではないかと行ってきたが反映されなかった。共汗の中で自分たちで作れば大事にするだろう。将来京都市民として、京都に住んでよかった、いつまでも住み続けたいというまちにしていきたいということで今回計画を作られるのだと思うが、10年後が楽しみになるような会議になってほしいと思う。

乾部会長

市として総括はされているとは思いますが、市民一人ひとりの中に何が落ちているのか。もしかしたらまた一部の人で何かしていると思われているのではという懸念もあるが、それでも頑張らなければならないと思う。

細田委員

この10年は失われた10年と言われている。私が思うに、昔から考えれば近所付き合いが京都の中のうるおいとしてあった。また、企業も人を大切に育てるということをやってきて日本を向上させてきたのだが、この10年は資本主義が強くなり、個人の時代になってきている。市民生活、互いの絆を大事にしなければならないと言うことは分かりつつも、個人個人を大事にしすぎているのではないか。

また、計画を作るときには10年先にはこういう京都市になってほしいというプランがあるべきで、その中で互いが何をしなければならないかということが大切である。

そういう意味では、やはり10年を考えるなら20歳くらいの若い人が会議に入って自分たちがこうしていくと意見を聞く場があることが、まちづくりにつながると思う。

池坊委員

参考資料として、基本計画の40指標の達成状況があるが、10年かけてどれだけ改善したのかという数値はとても大切で、数字がなければ客観性もないが、一方で文化などは数字では測れないものもある。例えば、地域体育館が整備されて、実際どのように運営されているのか、地域の高齢者の方が参加できる種目がどれだけあるのかといったことなど、ただ回数、達成率が数字的に高いということではなく、来た方がどれだけの満足度を持って帰ったのかという見方も必要である。

京都は他の新しい都市と違い、とても長い歴史と伝統がある文化度の高い都市である。文化度が高いということは、数の目標値をクリアすることはいわば当たり前であって、そのうえで質まで踏み込むことが、他都市からも憧れられる京都としての理想像につながるのでそういう視点も大切にしていきたい。

また、地域の活動に参加すると、敬老の集いなどで70代の方の表彰のお手伝いに60代の方が一生懸命に働いておられる。そういうのを見ると日本は本当に豊かな国なのかと思うことがある。やはりもう少し若い方が市政とか自分たちのまちであるという意識を持って、実際に身を使って働くというシステムが必要だと思う。

梶田副部長

「こんな日本でよかったね」という本を愛読しているが、人間は言いたいことが先にあって言葉を言うのではなく、言ってから本当に言いたかったのかを確かめるというのが言葉の役割ということが書かれている。文章は書いたことを直せるが、言ったことは直せない。人の言うことを聞いて、お互いに言い合って、それぞれが何を大事にしていきたいのかを確かめることが大切である。地域の中でも自分が何をしたいのかではなく、お互いが言い合ってそれぞれが何を大事にしてきたのかと考えると、こここのころの日本は、近所付き合いをやめて個人が自立していかなければならないと言い続けてきた影響が京都でも顕著に現れてきたのではないか。

私の立場から言わせていただくと、共同体としての宗教から個人が放り出されてきたので自分が潤うためにお寺に来ることが出てきた。お寺に来ていただいて、京都に観光に来ていただいてお金を落としてもらっただけでよいのか、本当にうるおいを持って帰っていただきたいのかが求められる。

人付き合いはわずらわしさも伴うが、しかしその中に喜びを見出すという政策が必要である。今まで京都市は市民に遠慮し過ぎてきたと私は思っている。皆様がやる気を出すようなことを打ち出し、色んな意見を戦わせる場所に会議の場がなればと思う。

小幡委員

今の人間は権利ばかり主張して義務を果たさない人が多く見られる。今回、これが市民の義務だという計画も提示することで、できるか、できないかの議論が沸き起こり、市民が自覚を持って参画してくるのではないだろうか。鳩山首相が温室効果ガス排出量の25%削減を打ち出して議論が巻き起こった面もある。どこまで義務と言えるかは議論しなければいけないが、京都市民としての自覚を促す提案ができればと思う。

村井委員

市民的な権利ばかり主張するのではなく、義務を果たすこと、行政も義務を果たしてくださいということを積極的に言うべきである。

うちの社会福祉協議会の会長は喜寿の方がされており、本人は高齢なのでやめさせて欲しいと言っているが、健康なのだから年齢は関係ないをお願いしている。

また、私のところではコミュニティバスを日本で初めて行っており、視察にも来られるがどこも成功したと言ってこない。醍醐ではなぜできたかという女性会のリーダー的な方が始め、その方の熱意で実現した。女の人々の力は私たちが及ばないものがある。

遠藤委員

「京都市民としての」という言葉があったが、子どもが小学校に入って京都のお寺、名所をめぐらせてもらう機会がない。すぐ近くに桂離宮があるが、場所を聞いても近所の人もよく知らないということがある。京都に住んでいる誇り、世界各国からここを目指して見に来るすばらしいものがあるということ子どもたちに伝えられる機会が少ないので、子どものうちからありがたいところに住んでいるという教育が市全体であればよいと思う。

乾部会長

先ほどの茂山さんの御意見は非常によいと思う。形ではうるおい部会、すこやか部会などがあるが、部会に直交して子どもとどうつながるのかということなどを各部会から出してもらおうという考え方はあり得ると思う。

梶田副部会長

うるおいには、うるおい、恵みを受けるといった意味があるが、市としてはうるおい部会の「うるおい」をどのように考えているのか。

乾部会長

先ほどのプライオリティの話と合わせて市から御回答をお願いする。

事務局（大田京都創生推進部長）

まず、石田委員から御質問のプライオリティについて、融合委員会で未来像と重点戦略を御審議いただくこととしているが、これらはプライオリティの高いものと位置付けている。各部会においては、分野別の議論をしていただくが、重点戦略に位置付けられるか否かに関わらず、基礎的自治体の役割として、すべての行政分野で必要な施策を実施していく。そういう意味ではすべての政策が必要であり、プライオリティはないのだが、分野別方針をブレイクダウンしてどのように具体的な事業を実施していくかについては、財源等をにらみながら、基本計画の下に実施計画等を作り、その中で調整したい。

次に、梶田副部会長からのうるおいに関する御質問については、環境、市民生活、文化・スポーツという分野は、市民生活を快適、うるおいのあるものにするという観点で

はないかと思ひ、これらを御審議いただくため、うるおい部会と名付けている。

また、先ほど村井委員の御指摘にあった現行計画の総括について、参考資料として示している現行計画に掲げた40指標の達成状況がこれに該当するものである。達成できていないものもあるが、現状として受け止め、各分野の議論の中でお示ししていきたい。

細田委員からの10年後はこうあるべきというプランを描くべきという意見については、共汗型計画ということでこの計画を市民と共有するものにしたと考えており、行政の考え方は、今後の部会の中でお示ししたうえで、市民と行政が一緒になって実施していくものとした。

村井委員

現行計画の総括について、資料としてはまとめられているが、それが市民の中にどう理解されているのかということを行っている。市民は知らない。

濱崎委員

私は学生の時に京都に居て、その後一度出てまた京都に戻ってきた。悪い告白をさせていただくと、地域の運動会に参加したことがない。私は神戸の出身だが、京都が学区に縛られているということを理解するのに非常に時間が掛かった。子どもや外から来た方に対し今ひとつ分かりにくい。京都に来る人は京都が好きで、何とかしたいと思っている人はたくさんいる。見えにくい部分が京都の魅力でもあるが、何か道筋が欲しい。私自身の中でなぜ地域に参加しないのかということを考えてお示しできればと思う。

板倉委員

西京区で活動して10年になり、やっとなじんできたところで、地域のことなら色々と言えるので、西京区ではどんなことが行われているといったことはこれから伝えていきたい。

安保委員

数値目標のお話があったが、うるおい部会としてどううるおったのかを市民に実感してもらうのは非常に難しい。人権も最終的には雰囲気、人として尊重されている雰囲気を感じられるときに実感するので、その雰囲気をどう出すかということが大切である。うるおい部会も同様の難しさがあり、市民の方は数値とか難しい報告書は読まないで、10年後に京都に暮らしてなんとなく潤ったなあと感じてもらえれば市民に理解されたということになると思う。

乾部会長

議論を整理すると、1点目は、うるおい部会は色んな分野とつながるものであり、部会運営については、仮の提案であり、色んなところにぶち抜いてかまわないということが確認された。

2点目は、進め方について、最初から形があるのではなく、議論して出し合いながら発言し合って形を作っていくということである。

3点目は、いろんな意味でうるおいという言葉が大事にする、「ありがとう」という言葉になるのかもしれないが、人と人との間を考えること、たぶんそれがうるおいと密接につながることが確認できた。

4点目は、地域コミュニティ、人権、まちづくり、スポーツなど色んな項目があるが、人をつなぐという観点で議論ができるのではないかとということである。

5点目は、そういうときに様々な主体がいるということを考えなければならない。京

都を訪れる人など外から来た人，大学生をどう取り込んでいくのか，とりわけ子どもたちにどう伝えていくのかということがうるおい部会を超える大きな視点になるのではないかとのことである。

6点目は，この10年間は決してバラ色ではなく，マイナス点である地域がばらばら，企業が人を大事にしなくなったといったことを受け止めつつも，暗くなるのではなく，少しでもましになる方法を考えるべきという指摘があった。

7点目は，市民皆が主人公，皆が主体という絵に描けば簡単な言葉だが，本当に腑に落ちたのか，どう考えているのかということも含め，言われたからするのではなく，「私がする」ということをどう伝えていくのかということが大事である。

8点目は，そのために大上段に議論しても伝わらないので，私ができること，私にとってどうなのかということをも市民一人ひとりが気が付けることを一つの切り口として考えなければならない，市民に積極的に議論を吹っかけていくスタンスもありかもしれないということが語られた。

こういうことが浮かび上がってきたということが今日の大事な部分かと思うが，私自身としては，自由参加でも良いので他部会との議論をうまくできないかという点と，もう1点，市の方で策定推進本部を作られているので，そこを議論する場も作ればというのが個人的な希望である。

傍聴の方で，今日の話聞いて御意見があれば発言いただきたい。

——（傍聴者意見なし）——

乾部会長

それでは，次回は事務局と相談したいと思うが，文化・スポーツを切り口に今日の議論を基にしながら進めるということで，事務局から何か連絡があればお願いします。

——（事務連絡）——

4 閉会